

阿波国文庫本『蜻蛉日記』の書入の考察

武藤那賀子（編集責任）

富澤萌未 田嶋知子 竹田由花子

毛利香奈子 伊藤優紀奈 福里将平

増田さんご 石川貴洋 富永曜子

伊達 舞

「キーワード ①阿波国文庫本『蜻蛉日記』 ②書き入れ記号 ③書き入れ注記

はじめに

る。

藤原道綱母作といわれる『蜻蛉日記』は、本文に大きな異同があり、いずれの底本で読むかという問題がある。本稿は、古本系諸本の親本に近いとされる阿波国文庫本^{註1}を用い、同本を用いた研究会において問題となった書入れを考察するものである。ただし、本稿は研究会の途中経過報告であるため、阿波国文庫本の第一丁から第十四丁までの翻字及び書入れの整理にとどま

阿波国文庫本『蜻蛉日記』は、鵜飼郁次郎（一八五五～一九〇一）の所蔵図書（鵜飼文庫）であったが、後に徳島藩主蜂須賀家に渡り、「阿波国文庫」の朱印を押され、現在は、人間文化研究機構国文学研究資料館が所有者となっている。上村悦子^{註2}による書誌情報は以下の通り。

体裁、上・中・下三卷。美濃紙判型（二六・七×二〇・〇

cm) 袋綴。

表紙、渋紙。料紙は楮紙。

題簽、各冊にそれぞれ「蜻蛉日記」

と雄渾な筆で書かれ、上巻にあたる

巻には「琴」、中巻には「詩」、下巻には「酒」と記されている。

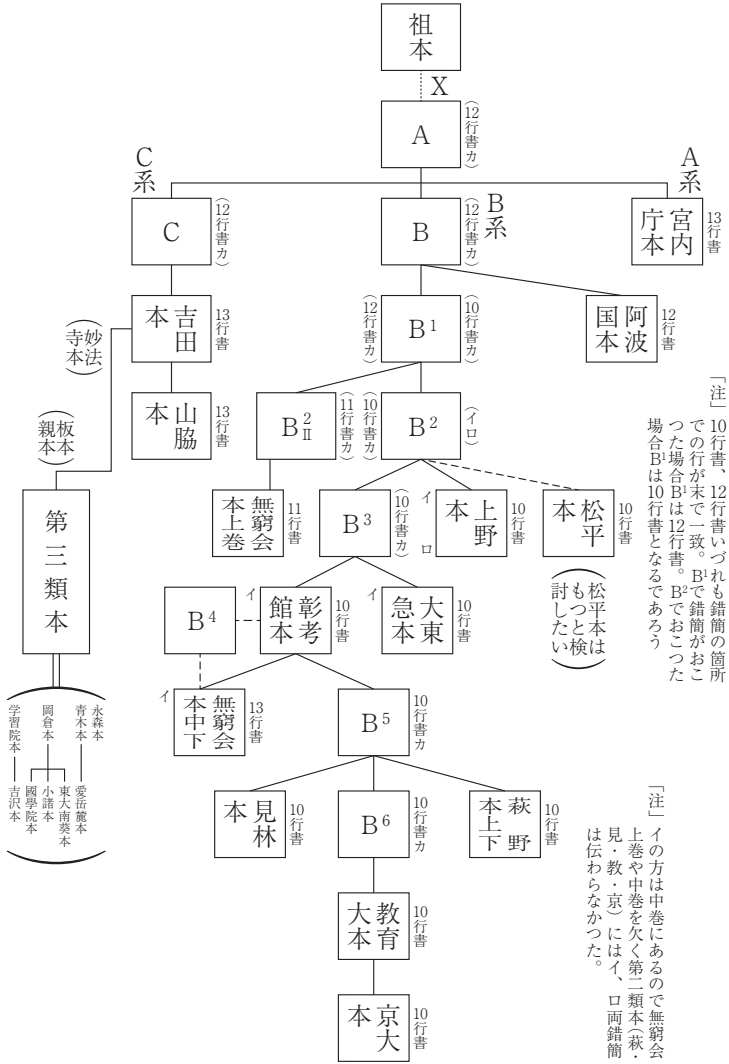
当該本には異本注記が多く、また、書入記号もま見える。上村悦子^{注5)}は、以下のようにまとめる。

吉川理吉氏が「此本近世末期以来古

写本の称あり。即ち例の松廼屋本解題に「古写本」「右古

写本ニ校合シテアリケル一本也」として校合したるが此本并にその校註なり」と述べられ(昭和十一年十月)ているが阿波

国本文庫本にも萩野本を「古」として校合書入れている。



[注] 10行書、12行書いづれも錯簡の箇所での行が未で一致。B¹で錯簡がおこった場合B²は12行書、B²でおこった場合B¹は10行書となるであろう

(松平本はもつと検討したい)

[注] イの方は中巻にあるので無窮会上巻や中巻を欠く第二類本(萩・見・教・京)にはイ、口両錯簡は伝わらなかつた。

しかし、「古」とある異本注記は必ずしも萩野本と一致してゐるわけではない。また、異本注記されている異本は「古」以外にもある。注記にある異本がどの系統の本文によるものかがわ

かることにより、当該本の書誌がより詳細にわかる。なお、異本の本文系統を探るにあたり、上村悦子が諸本についてまとめた図^{注4}を掲げる。

『蜻蛉日記』の諸本は、第一類、第二類、第三類に分けられている。このうち、第一類本はA系統、B系統、C系統に分けられるが、A系統は宮内庁本（桂宮本）のみである。阿波国文庫本はB系統の古本であり、同系統には松平本、上野本、大東急本、彰考館本、無窮会本がある。なお、B系統の中巻が抜けたものが第二類本とされている。また、C系統の吉田本から版本原本が分かれ、さらにそこから第三類本へと系統が分かれる。

翻刻と注記にある異本系統

当該本の本文の傍に書かれた異本注記を書き出し、どの系統の本文に近いかを表にまとめた。なお、異本注記の箇所をわかりやすくするため、翻刻も併せて載せる。翻刻の凡例は以下の通り。

- 一、改行箇所や和歌の書式は原本のままとし、利用の便を考え、頁毎に区切り、丁数とその表裏、行数を付記した。
- 一、原本に用いられている変体仮名は、すべて現行の平仮名に統一した。ただし、原本の平仮名中に片仮名を混用した箇所は、片仮名を平仮名に改めた。
- 一、清濁、句読点も原本のままにした。
- 一、ミセケチは、現状では文字に二本線を引いている。このた

め翻刻では、ミセケチを、取り消し線で示した。また、消した上で文字を補っている場合は、ミセケチにした文字の隣に補った。

- 一、不明瞭な字は「 」で示した。
- 一、傍記は、該当する文字の横にそのまま示した。
- 一、補入記号のない補入は「 」で示し、補入記号のある補入は「 」で示した。ただし、異本注記と思われるものはこの限りではなく、現状に近い状態にした。

表の凡例は以下の通り。

- 一、異本注記は表の「書入内容」に示し、異本の種類を示す記号は「書入記号」に示した。また、これらの中で朱墨で書かれたものは「 」で示した。
- 一、本文にミセケチがある場合には、ミセケチの線が墨である場合は、「ミセケチ」の段に「黒」、朱墨である場合には「朱」で示した。
- 一、「書入内容」に示された異本の本文に合致する本文に「○」をつけた。
- 一、どの本文にも合致しない異本注記には網掛けを施した。
- 一、表には示せない事項についてはアスタリスクをつけ、表の下にその詳細を示した。

一オ 村上御時／天曆八年

1 かくありしときすきて世中に
 2 いとものはかなくともかくにもつ^替
 3 かつてよにふる人ありけりかたちとて
 4 も人にもにすこへこゝろたましひもあるに
 5 もあらてかうもの、えうにもあ
 6 らてあるもことほりとおもひつ、
 7 た、ふしをきあかしくらす
 8 ま、に世中におほかたふるもの
 9 かたりのはしなどをみればよにおほ
 10 かるそらことたにあり人にもあらぬみの
 11 うへまでかき日記^{ニキ}してめつらしきさま
 12 にもありなむ天下の人のしなたりきやど

一ウ

1 とはむためし^二に^一もせよかしとおほゆる
 2 もすきにしとしつきころのことも
 3 おほつかなかりければさてもありぬへ
 4 きことなむおほかりけるさてあゆ^ふ
 5 卍^キかりしつきこと、ものそれはそれ
 6 としてかしは木のこたかき
 7 わたりよりかくいはせむとおもふ
 8 ことありけりれいの人はあない
 9 するたよりもしはなま女など
 10 していはすることこそあれこれ
 11 はを^おやとおほしき人にたはふれ
 12 にもまめやかにもほのめかし

二オ

1 しにひ^ナ卍^ナきことしいひつきをも
 2 しらすかほにむまにはひのりたる
 3 人してうちた、かすたれなといは
 4 するに卍^ナおほつかなからすき卍^ナ
 5 たれはもてわつらひとりいれてもて
 6 さはくみればかみなどめれいのやう
 7 にもあらしいたらぬところなしと
 8 き、ふるしたるてもあらしとおほ
 9 ゆる卍^ナてあしければいとそあやしき
 10 ありけることは^ナ
 11 おとにのみきけはかなしなほど、きす
 12 ことかたらはむとおもふ^ナころあり

二ウ

1 とはかりそあるいかにかへりことはすへ^ナ
 2 やあるなとさたむるほどにこたいなる
 3 人ありてなほとかしこ卍^ナりて
 4 か、すれは
 5 かたらはむ人なきさとにほと、きす
 6 かひなかるへきこゑなふるしそ
 7 これをはしめにてま^ナもくもおこ
 8 すれとかへりこともせざりければ
 9 又
 10 おほつかなおとなきたきの水なれや
 11 ゆくゑもしらぬせをそたつぬる
 12 これをいまこれよりといひたれば^ナはしれたる

												2ウ													1ウ	1オ	丁数	
12	3	1	12	10	9	5		4	3	1	11	5	4	1	12	2	行数											
	朱	黒		朱	黒	朱		黒	朱	朱	黒	朱	朱	黒			ミセケチ											
	(ナシ)	(へた)	く	(こ、)	(なり)	ま		(と)	ゝゐ		(を)	(し)	な	(お)	な	ふ	(に)	か	(行)	書入内容								
	(古)													(イ)	(イ)			(古)		書入記号								
																	○		宮内庁本	A系	第一類本							
																	○		松平本									
																	○		上野本									
												○					○		大東急本	B系								
	○											○					○		彰考館本									
																	○		無窮会本									
																	○		吉田本	C系								
																	○		山脇本									
○	○			○		○				○	○		○			○		○	萩野本	第二類本								
																	○		見林本									
	○	○	○	○		○				○	○		○			○	○		教育大学本									
	○	○	○	○		○				○	○		○			○	○		京都大学本									
																	○		永森本	甲類	第三類本							
			○		○												○		静嘉堂愛岳麓本									
																	○		岡倉本									
			○									○					○		東大南葵本									
																	○		小諸本									
																	○		國學院大學本									
			○									○					○		学習院本									
		*6	*5		*4		*3	*2						*1					備考									

- *1 「あふなかりし」という異本があつたか。
- *2 「は」を墨でミセケチにし、さらにそのミセケチを朱墨で消す。
- *3 「わひ」を墨でミセケチにして「ゝゐ」にし、さらにそのミセケチを朱墨で消す。
- *4 「さ」を墨でミセケチにして「ま」にし、そのミセケチを朱墨で消す。
- *5 「こ」の右に「こ、」と傍記し、その傍記の右に朱墨で点を付すか。
- *6 「て」を墨でミセケチにし、さらにそのミセケチを朱墨で消す。

三才

- 1 やうなりやかくそある
 2 ひとしれすいまや／＼とまつほとに
 3 かへりこぬこそわひしかりけれ
 4 とありければれいの人かしこし
 5 をさ／＼しきやうにもきこえむこそ
 6 よからめとてさるへきひとしてある
 7 へきにか、せてやりつそれをしもま
 8 めやかにうちよろこひてしけうかよはず
 9 またそへたるふみ、れは
 10 はまちとりあともなきさにふみ、ぬは
 11 われ^を~~れ~~^こすなみうちやけつらむ
 12 このたひもれいのみめやかなるかへり
- 三ウ
- 1 ことする人あれそまきはしつ^{聞吉}
 2 又もありまめやかなるやうにてあるも^{文吉}
 3 いとおもふやうなれとこのたひさへ
 4 なうはいとつらふもあるへきかな
 5 などまめふみのはしにかきて
 6 そへたり
 7 いつれともわかぬ心はそへたれと
 8 こたひはさきにみぬ人のかり
 9 とあれとれいのまきはしつか、れは
 10 まめなることにて月日^イすくしつ
 11 あきつかたになりにつけりそへたる
 12 ふみに心さかしらついたるやうに

四才^{注5}

- 1 みえつるうさになむねむしつれと
 2 いかなるにかあらむ
 3 しかのねもきこ^えぬ〔里〕にすみながら
 4 あやしくあはぬめをもみるかな
 5 とあるかへりこと
 6 たかさこのおのへわたり^のにすまふとも
 7 しかさぬへきめとはきかぬを
 8 けにあやしのことやとはかりなむ又
 9 ほとへて
 10 あふさかのせきやな^{カイ}な^{カイ}ちかけれと
 11 こゑわひぬれはなけきてそふる
 12 かへし
- 四ウ
- 1 こえわふるあふさかよりもをとにきく
 2 なこそをかたきせきとしらなむ
 3 なといふまめ^みふそかよひ／＼ていかなる
 4 あしたにかありけむ
 5 ゆふくれのなかくるまをまつほとに
 6 なみた^はおほ^のか^はこそなれ^{と吉}
 7 かへし^{リコト}
 8 おもふことおほるのかはのゆふくれは
 9 こへこゝろにもあらすなかれこそすれ
 10 また三日はかりのあしたに
 11 しの、めにおきけるそらはおもほえて
 12 あやしくつゆときえかへりつる

			4ウ				4オ				3ウ	3オ	丁数					
			6	3	11		10	6	3	10	4	2	1	11	行数			
						黒	黒		黒					黒	ミセケチ			
リコト	(と)	の	(は)	み	は	か	か	(の)	え	は	く	(文)	(同)	は	をこ	書入内容		
	(古)		(古)			イ	イ	(古)		イ		(古)	(古)			書入記号		
○	○			○				○		○						宮内庁本	A系	第一類本
	○			○				○		○						松平本		
○	○			○						○						上野本	B系	
	○			○						○						大東急本		
	○			○						○						彰考館本	C系	
	○			○						○						無窮会本		
	○	○		○						○						吉田本	C系	
	○			○						○						山脇本		
	○		○	○						○						萩野本	第二類本	
	○			○						○						見林本		
	○		○	○					○	○						教育大学本		
	○		○	○					○	○						京都大学本		
	○			○						○						永森本	甲類	第三類本
	○	○		○					○	○						静嘉堂愛岳麓本		
	○			○						○						岡倉本		
	○	○		○					○	○						東大南葵本		
	○			○						○						小諸本		
	○			○						○						國學院大學本		
	○	○		○					○	○						学習院本		
*5	*4		*3					*2					*1			備考		

- *1 「つ」の横の「同」は、後世の人が「津」を讀めず、「同」字に間違えたものの可能性がある。なお、「つ」を「ほ」にした場合、大東急本と萩野本の本文と同じになる。
- *2 「おのへ」の下に朱墨で補入記号がある。
- *3 「なみた」の下に朱墨で補入記号がある。
- *4 「かは」の下に朱墨で補入記号がある。
- *5 この箇所との異同は以下の通り。
- かへしリコト 宮内庁本・阿波国文庫本・上野本
- かへしイ 大東急本・彰考館本
- かへし 無窮会本
- かへし 萩野本
- 返しイ 教育大学本・京都大学本
- 返しコト 学習院本・静嘉堂本
- かへりコト 東大南葵本・吉田本

五才

- 1 かへし
 2 さためなくきえかへりつる露よりも
 3 そらたのめするわれはなになり
 4 かくてあるやうありてしはしたひ
 5 なるところにあるにものしてつと
 6 めてけふたにのとかにとおもひつる
 7 をひなけなりつれはいかにそ
 8 みには山かくれとのみなむとあるかへり
 9 ことにた、
 10 おもほえぬかきほにをれはなてしこの
 11 はなにそつゆはたまらざりけり
 12 なといふほどに九月になりぬ

五ウ

- 1 つこもりかたにしきりて二よはかり
 2 みえぬほどふみはかりあるかへり
 3 ことに
 4 きえかへりつゆもまたひぬ袖のうへに
 5 けさはしらく、そらもわりなし
 6 たちかへりかへりこと
 7 おもひやる心のそらになりぬれは
 8 けさはしくるとみゆるなるらむ
 9 とてかへりことかきあへぬほどにみえ
 10 たり又ほとへてみえをこたるほどあ
 11 めなとふりたるひくれにこむなど
 12 やありけむ

六才

- 1 かしはきのもりのしたくさくれことに
 2 なをたのめとやもるをみるく
 3 かへりことはみつからきてまきらは
 4 しつかくて十月になりぬこ、に
 5 ものいみなるほどを心もとなけに
 6 いひつ、
 7 なけきつ、かへすころものつゆけきに
 8 いと、そらさへしくれそふらむ
 9 かへしいとふるめきたり
 10 おもひあらはひなまし物をいかてかは
 11 かへすころものたれもぬるらむ
 12 とあるほどにわかつたのもしき人みち

六ウ

- 1 のくにへいてたちぬとき(け)はいとあはれ
 2 なるほどなり人はまたみなるといふ
 3 へきほどにもあらずみゆることは
 4 た、さしくめるにのみありいとこ、ろ
 5 ほそくかなしきことものにすみる
 6 人もいとあはれにわするましき
 7 さまにのみかたらふめれと人のこ、ろ
 8 はそれにしたかふへきかはれとおもへは
 9 た、ひとへにかなしうこ、ろほそき
 10 ことをのみおもふいまはとてみな
 11 いてたつひになりてゆく人もせき
 12 あへぬまでありとまる人はたまたいで

					6 ウ	6 オ	5 ウ	5 オ	丁数	
10	8	5	4	1	12	5	6	行数		
								ミセケチ		
〔ひて〕	〔ナシ〕	な	〔る〕	〔ナシ〕	け	も	く	書入内容		
〔古〕	〔古〕		〔古〕	〔古〕				書入記号		
	○							宮内庁本	A系	第一類本
	○							松平本	B系	
	○		○					上野本		
	○		○					大東急本		
	○		○					彰考館本		
	○		○					無窮会本		
	○						○	吉田本	C系	
	○							山脇本		
○	○		○	○			○	○	萩野本	第二類本
	○								見林本	
○	○		○	○			○	○	教育大学本	
○	○		○	○			○	○	京都大学本	
	○								永森本	甲類
	○		○				○		静嘉堂愛岳麓本	
	○								岡倉本	第三類本
	○						○		東大南葵本	
	○								小諸本	
	○								國學院大學本	
	○						○		学習院本	
					*2	*1			備考	

*1 「も」の横に墨で「モ」と傍記。
 *2 「き」と「は」の間に墨で補入記号あり。

七才

1 いふかたなくかなしきにときたかひ
 2 ぬるといふまでもえてやらす
 3 又かたへみなるすゝりにふみをしま
 4 きてうちいれて又ほろくとうち
 5 なきていてぬしはしはみむこへこゝろも
 6 なしみいてはてぬるにためら
 7 ひてよりてなにごとそとみ
 8 れは
 9 入入後拾遺きみをのみたのむたひなるこゝろには
 10 ゆくすゑとをくおもほゆるかな
 11 とそあるみるへき人みよとなめりと
 12 さへおもふにいみしうかなしうてありつる

七ウ

1 やうにをきてとはかりあるほどにもの
 2 したテシ古ゆりめもみあはせずおもひ
 3 いらてあれはなとかよのつねのことに
 4 こそあれはとかうしもあるはわれを
 5 たのまぬなめりなともあへしらいすゝ
 6 りなるふみをみつけてあはれといひて
 7 かとてのところ
 8 後後拾われをのみたのむといへはゆくすゑの
 9 まつまのちちきりきもきてこそはみめ
 10 となむかくてひのふるまゝにたひの
 11 そらをおもひやるたたちいとあはれ
 12 なるに人のこゝろもいとたのもしけ

八才

1 にはみえずなむありけるしはずに
 2 なりぬよかはにもものすることありて
 3 のほりぬ人大ゆきにふりこめられて
 4 いとあはれにこひしきことおほくなむと
 5 あるにつけて
 6 こほるらむよかはのみつにふるゆきも
 7 わかこときえてものはおもはし
 8 なといひてそのとしはかなく
 9 くれぬ天群九正月はかりに二三日みえぬ
 10 ほとにもものへわたらむとて人人はばとら
 11 〔せせ古〕よとてかきをきたる
 12 しられねはみをうくひすのふりいてつゝ、

八ウ

1 なきてこそゆけのにもやまにも
 2 かへりことあり
 3 うくひすのあたにてゆかむやまの野古にも
 4 なくこゑきかはたたぬはかりそ
 5 などいふうちよりなほもあらぬこと
 6 ありてはるなつなやみくらして
 7 八月つこもりにとかうものしつその
 8 ほとこのこゝろはへはしもねむころなる
 9 やうなりけりさて九月はかりに
 10 なりていてにたるほどにはこの
 11 あるをてまさくりにあけてみれば
 12 人のもとにやらむとしけるふみあり

		8ウ					8オ				7ウ	7オ	丁数				
7	4	3	11	10	9	9	3	11	9	9	2	1	5	3	行数		
		黒													ミセケチ		
(ナシ)	つ	の野	(せ)	こ	(ナシ)	天曆九	大	に	みか	よを	(ナシ)	ア	こ	かたへ	書入内容		
(古)		(古)	(古)		(古)						(古)				書入記号		
		○			○					○					宮内庁本	A系	第一類本
		○			○										松平本	B系	
															上野本		
															大東急本		
															彰考館本		
		○			○					○					無窮会本		
		○			○										吉田本	C系	第二類本
		○			○										山脇本		
		○			○					○					萩野本		
		○			○										見林本		
						○					○				教育大学本		第三類本
						○					○				京都大学本		
		○			○										永森本	甲類	第三類本
		○			○										静嘉堂愛岳麓本		
		○			○										岡倉本	乙類	
		○			○										東大南葵本		
		○			○										小諸本		
		○			○										國學院大學本		
		○			○										学習院本		
			*6	*5			*4	*3				*2	*1		備考		

- * 1 静嘉堂愛岳麓本は、「こ、ろ」、彰考館本は、「こころ」、他本は、「心」と表記されている。(阿波国文庫本は「こころ」と表記)(阿波国文庫本は、「あ(阿の草体)」の右に墨で「ア」と傍記。
- * 2 阿波国文庫本は、「あ(阿の草体)」の右に墨で「ア」と傍記。
- * 3 「人」の横に朱墨で「大」とあり。
- * 4 この簡書の異同は以下のようになっている。「正月」の右に朱墨で「天曆九年」
- 大東急本
- 「正月」の左に墨で「天曆九年」
- 彰考館本
- 「正月」の右に墨で「天曆九年」
- 学習院本
- 「正月」の右に朱墨で「天曆九年」
- 静嘉堂愛岳麓本
- 「正月」の上欄に「天曆九年」
- 教育大学本・京都大学本
- * 5 阿波国文庫本はアイマイナ字の右に朱墨で「せ古」と表記されている。
- * 6 「く」がミセケチになっており、その右に墨で「の」、その右に朱墨で「野」、その右に朱墨で「古」。
- 萩野本・教育大学本・京都大学本は、「野」。
- 上野本・大東急本・彰考館本・学習院本・静嘉堂愛岳麓本・東京大学南葵本・吉田本は「く」、宮内庁書陵部本は「へ」。

九才

- 1 あさましさにみてけりとたにしられむと
- 2 おもひてかきつく
- 3 わづらはしをもうたかはしほかにわたせるふみ、れは
- 4 われこそこ、やとたえにならむとすらむ
- 5 などおもふほとにあ懐へなう十月つこも
- 6 りかたにみよしきりてみえぬとき
- 7 ありつれなうてしはしこ、ろみるほ
- 8 とになどけしきありこれよりゆふ
- 9 さりつかたうちのかたるましかり(字)中にもほんのまじあり
- 10 けりとていつるに心をせして人をつけ
- 11 てみすれはまちのこうちなるそこ
- 12 くになむとまりたまひぬ

九ウ

- 1 とてきたりされはよといみしうこ、ろ
- 2 うしと思へともいはむやうもしらて
- 3 あるほとに二三日はかりありてあか
- 4 月かたにかとをた、くときありさな
- 5 めりとおもふにうくてあけさせねは
- 6 れいのいへとおほしきところに
- 7 ものしたりつとめてなほもあら
- 8 しとおもひて
- 9 なけきつ、ひとりぬるよのあくるまは
- 10 いかにひさしきものとかはしる
- 11 とれいよりはひきつくるひてかきて
- 12 うつろひたるきくにさしたり

十才

- 1 かへりをに益あくるまでもこ、ろみむと
- 2 しつれととみなるめしつかひのき子言
- 3 あひたりつればなむいとと懐りあ
- 4 なりつるは
- 5 けにやけにふゆのよならぬまきのとに
- 6 おそくあくるはわひしかりけり
- 7 さいてもいとあやしかりつるほどにことな
- 8 しひたるしはしはしのひたるさま
- 9 にうちになどいひつ、そあるへきを
- 10 いと、しう心つきなくおもふこと
- 11 そかきり天曆十年なきやとしかへりて三月
- 12 はかりにもなりぬも、のはななと

十ウ注6

- 1 やとりまうけたりけむまつにみえず
- 2 いまひとかたもれいはたちさらぬ心ち
- 3 にけふそみえぬさて四日のつとめて
- 4 そみなみえたるよへよりましくらし
- 5 たるものともなほあるよりはとて
- 6 こなたかなたとりいてたり心さし
- 7 ありしはなをおもてうちのかたより
- 8 あるをみれば心た、にしもあらて
- 9 てならひにしたり
- 10 まつほとのきのふすきにしはえのみは
- 11 けふをることそかひなかりける
- 12 とかきてよしやくきにきにおもひてか

		10ウ					10オ	9ウ					9オ	丁数			
10	7	5	11	4	3	2	1	4	10		9	5	4	3	行数		
黒					黒			黒				黒	黒		ミセケチ		
え	り	(も)	天曆十年	か	わ	(ナシ)	にな	を	(せ)	まにもほんの まゝとあり	(ナシ)	あ	われとぞ	わつらはしをも	書入内容		
		(古)				(古)	温		(古)		(古)				書入記号		
			○		○					○				○	宮内庁本	A系	第一類本
						○				○				○	松平本	B系	
						○				○				○	上野本		
		○	○							○				○	大東急本		
			○			○				○				○	彰考館本		
						○								○	無窮会本	C系	
						○								○	吉田本		
						○								○	山脇本	第二類本	
	○	○	○			○	○			○		○			萩野本		
		○	○			○	○					○			見林本		
						○	○					○			教育大学本		
						○	○			○		○			京都大学本	第三類本	
															永森本		甲類
○	○	○						○							静嘉堂愛岳麓本		乙類
								○							岡倉本		
○						○		○							東大南葵本		
															小諸本		
															國學院大學本		
○						○		○							学習院本		
										*2			*1		備考		

*1 「われとぞ」の傍書をもつのは、宮内庁本、上野本、無窮会本、吉田本、彰考館本(本)。

だが、「とぞ」が墨消しされている本文は、阿波国本のみである。ただし、ここは、「われ」という異本があるという意味で、「われとぞ」であった可能性もあり、そうなる

*2 この箇所の異同は以下のようになっている。

本にもほんのまゝとあり

宮内庁本・阿波国文庫本・上野本・大東急本・彰考館本

本にも本ノマ、ト在

無窮会本

注云本ニモ本ノマ、トアリ

静嘉堂本

注云本にも本のまゝとあり

学習院本

吉田本は「傍記なし」となっているが、朱墨で書かれたことになっている。

十一オ^{注7}

- 1 くしつるけしきをみてばひとり
 2 てかへししたり
 3 みちとせをみつゝきみにはとしことに
 4 すくにもあらぬはなとしらせむ
 5 とあるをいまひとよたにもきゝて
 6 はなによりすくてふことゆゝしきに
 7 よそなからにてくらししてしなり
 8 かくていまはこのまちのこうちにわざと
 9 いろにゆわいてにたり本はひとを
 10 たにあやしうくやしと思ひけなる
 11 とさかちなりいふかたなうころうしと
 12 おもへともなにわをかはせむこのいま
- 11ウ
 1 ひとかたのいてりするをみつゝあるに
 2 いまは心やすかるへきところへとて
 3 ゐてわたすとまる人まして心ほそし
 4 かけもみえかたかへいことなとまめやかに
 5 かなしうなりてくるまよするほとに
 6 かくいひやる
 7 などかゝるなけきはしけさまさりつゝ
 8 人のみかゝるやとゝなるらむ
 9 かへりことはおとこそしたる
 10 おもふてふわかことのはをあた人の
 11 しけ^きなけきにそ^へてうらむな
 12 なといひをきてみなわたりぬおもひ

十二オ

- 1 しもしるくたゝひとりふしをきす
 2 おほ^ろけのよのうちあはぬことは
 3 なければたゝ人のこゝろのおもはず
 4 なるをわれのみならずとしころの
 5 ところにもたえにたなりときゝてふみ
 6 などかよふことありければ五月三四日の
 7 ほとにかくいひやる
 8 そこにさへよるといふなるまこもくさ
 9 かなるさはにねをとゝむらむ
 10 かへし
 11 まこもくさかるとはよとのさはなれや
 12 ねをとゝむてふさはゝ^くそこか
- 12ウ
 1 六月になりぬついたちかけてなかあめ
 2 いたうすみいたしてひとりことに
 3 わかやとのなけきのしたは^あま^たて
 4 うつろひにけりなかめふるまに
 5 などいふほとに七月になりぬたえぬと
 6 みましかはかりにくるにはまさりなまし
 7 などおもひつゝくるをりにものしたる
 8 日ありものもいはねはさうゝしけ
 9 なるにまへなる人ありししたはのこを
 10 ものゝついてにいひいてたれはきゝて
 11 かくいふ
 12 おりならていろつきにけるもみちはゝ

12ウ				12オ			11ウ					11オ	丁数		
13	12	11	5	2		11	8	12	9	6	5	3	行数		
黒				黒	黒	黒	黒		黒			黒	ミセケチ		
あきまたて	く	そ	み	ろけ	へ	き	る	さ		さ	か	へ	書入内容		
	古												書入記号		
				○					○	○			宮内庁本	A系	第一類本
				○					○	○			松平本	B系	
○				○					○				上野本		
○				○					○				大東急本		
○				○					○	○			彰考館本		
○				○					○				無窮会本		
	○			○					○	○		○	吉田本	C系	第二類本
				○					○	○			山脇本		
	○			○					○	○			萩野本		
				○					○	○			見林本		
○	○			○					○	○			教育大学本		
○	○			○					○	○			京都大学本		
				○					○	○			永森本	甲類	第三類本
○				○					○	○		○	静嘉堂愛岳麓本		
				○					○	○			岡倉本	乙類	
○				○					○	○		○	東大南葵本		
				○					○	○			小諸本		
				○					○	○			國學院大學本		
○				○					○	○		○	学習院本		
*4			*3				*2		*1				備考		

*1 この箇所の異同は以下の通り。

あきまたて いろに 大東急本

*2 「かゝる」の「ゝ」を墨でミセケチにし、「る」の後に補入記号なしで「る」を補入。

*3 「み」と読める曖昧な字の右に「み」が傍記されている。なお、教育大学本と京都大学本は「文」と表記されている。

*4 この箇所の異同は以下の通り。

あきまたて 阿波国文庫本・東大南葵本

あきまたて 宮内庁本・上野本・彰考館本・無窮会本

あきまたて 大東急本・学習院本・静嘉堂本（朱）

いろふかく 萩野本

いろふかく 吉田本

いろふかく 教育大学本・京都大学本

十三才

1 ときにあひてそいろまさりける
 2 とあれはすゝりひきよせて
 3 あきにあふいろこそましてわひしけれ
 4 したはをたにもなけきし物を
 5 とそかきつくるかまづくもかくありつゝ
 6 きたえすはくれとも心のとくるよ
 7 なきにあれまさりつゝきてはけしき
 8 あしければたふる^ひにたち山とたち
 9 かへるときもありちかきとなり
 10 こゝろはへしれる人いつるにあはせ
 11 てかくいへり
 12 もしほやくけふりのそらにたちぬるは

十三才

1 ふうすへやしつるくゆるおもひに
 2 などとなりさかしらするまでふうす
 3 へかはしてこのころはことゝひさしう^(ナシ古)
 4 みえすたゝなりしをりはさしも
 5 あらざりしをかくころあかくかれ^(ナシ古)
 6 ていかなるものと^ちかにかにうちをき
 7 たるものとみえぬくせんありける^ゆ
 8 かくてやみぬらんそのものと思ひ
 9 いつへきたよりたになくそありける
 10 かしと思ふに十日はかりありて
 11 ふみありなにくれといひて丁
 12 のはしらにゆひつつけたりし

十四才^{注8}

1 こゆみのやとりて(へと)あれはこれそあ
 2 りけるかしとおもひてときおろ
 3 して
 4 おもひいつるときもあらしとおもへとも
 5 やといふにこそおとろかれぬれ^(ナシ古)
 6 とてやりつかくてたえたるほと
 7 わかいへはうちよりまいりまかつる
 8 みちにしもあれはよ中あか月と
 9 うちしはふきてうちわたるもさかし^{らみ古}
 10 とおもへともうちとけたるいもねら
 11 れすよなかうしてねふることなけ
 12 れはさなゝりとみきく心●ち^地は

十四才

1 なにゝかはにたるいまはいかてみきか
 2 すたにありにしかなとおもふに
 3 むかしすきことせし人もいまはおは
 4 せず^もかなと人につきてきこえ
 5 こつをきく^{せき古}をものしうのみおほゆ
 6 れは日^るくれば^か非^言なしうのみおほ
 7 ゆ^うこともあまたありときくとこ
 8 もむけにたえぬときくあはれま
 9 していかはかりとおもひてとふら
 10 ふ九月はかりのことなりけりあはれ
 11 など(へし)けくかきて
 12 新古 ふうく風につけてもとはんざゝかにの

阿波国文庫本『蜻蛉日記』の書入の考察

					14 ウ			14 オ				13 ウ	13 オ	丁数							
11	7			6	5	4	9	5	1	7	6		5	3	8	行数					
						黒						朱				ミセケチ					
	し	る	さ	か	る	せき く	も	ら	み	ハ	(ナシ)	と	め	ら	く	歟	こ	(ナシ)	ひ	書入内容	
		イ	古			古		古	古	[古]		抄					古	温	書入記号		
									○										宮内庁本	A系	第一類本
									○										松平本	B系	
													○						上野本		
										○									大東急本		
										○									彰考館本		
																			無窮会本		
									○										吉田本	C系	
									○										山脇本		
		○				○		○	○	○									○	萩野本	第二類本
										○										見林本	
		○						○	○	○									○	教育大学本	
		○						○	○	○									○	京都大学本	
									○											永森本	甲類
									○										○	静嘉堂愛岳麓本	
									○											岡倉本	第三類本
○									○										○	東大南葵本	
									○											小諸本	
									○											國學院大學本	
									○											学習院本	
																				*1	備考

*1

なお、「あく」という本文を持つのは、萩野本・教育大学本・京都大学本・静嘉堂愛岳麓本・東大南葵本・学習院本である。

異本注記の「異本」

当該本の十四丁裏までに出てくる異本注記には、表の「書入記号」にも示したが、①「古本」、②「イ」、③「温」、④「抄」、⑤何も書かれないものの四種類があることがわかった。これらを整理する。

①「古」本

「古」本の注記は全て朱墨で書かれており、本文とは別筆である。注記箇所は二十八例あり、そのうちの二十三例が萩野本と、十八例が教育大学本、京都大学本と、五例が無窮会本と合致する。一方で、いずれの本文とも合致しない例が五例あり、全ての本文と合致する例が二例ある。これらのことから、「古」本は第二類本にかなり近い本文であったといえるが、やはり萩野本そのものとは言い切れない。

②「イ」本

「イ」本の注記箇所は六例あり、そのうちの四例がいずれの本文とも合致せず、一例のみ全ての本文と合致している。残る一例は、合致する本文の系統に偏りが無い。これらのことから、「イ」本の位置付けは難しい。

③「温」

「温」本の注記箇所は二例あり、うち一例はいずれの本文と

も合致せず、もう一例は、東大南葵本とのみ合致している。「温」本については後述する。

④「抄」本

「抄」本の注記箇所は一例あるが、いずれの本文とも合致しない。

⑤何も書かれない異本注記

「書入記号」も何も書かれず、異本注記のみが示される例は全部で六十九例ある。うち二十八例はいずれの本文とも合致しない。残りの四十一例も、合致する箇所に特に偏りは無い。ただし、第二類本である萩野本、教育大学本、京都大学本と、第三類本である静嘉堂愛岳麓本、東大南葵本、学習院本と合致する箇所がままあることから、第一類本からはやや離れているか。

「温」本について

『蜻蛉日記全注釈』^{注9}によると、「温」は、「温古堂本」のことである。「元禄版本を用い、東大付属図書館蔵（萩野氏旧蔵）。契沖の説を朱書きし伝えようとしたものであるが、上之上巻前半と下之上巻前半と下之中巻の初め数枚のみに書き入れするにとまわっている」とある。

実際に、東京大学付属図書館にある温古堂本（元禄十年版本、八冊本）を見ると、書き入れは以下のようになっていた。

上之一 薄朱墨と濃朱墨で書かれる

上之末 濃朱墨で意味が書かれる

中之一 (ナシ)

中之二 濃朱墨で点(読点か)が書かれる

中之三 (ナシ)

下之一 濃朱墨で点(読点か)と意味が書かれる

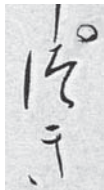
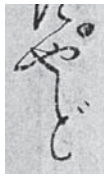
下之二 濃朱墨で点(読点か)と意味が書かれる

下之三 最初の丁のみ、濃朱墨で点(読点か)と意味が書かれる

「温古堂」とは、古田広計(江戸時代中期～後期の国学者)の印であるが、この本の下之三巻の最終丁裏のノドに「温古堂主人」の朱正方印、後ろ見返しに「古田氏」の文字が確認できた。また、上之一巻には、「水戸黄門卿御本」によって補った旨が二か所記されている。これについては、上村悦子のまとめがくわしい。^{注10)}

解釈記号について

当該本には、異本注記の他に、次の図に掲げたような「○」記号が何か所か出てくる。



この記号は、一見すると補入記号のように見えるがそうではない。これは、文をどこで切るかによって解釈が変わってくる箇所であることを示している。このため、本稿では、この記号を「解釈記号」と呼ぶ。第十四丁裏までに解釈記号があるのは、四か所である。それぞれの本文と解釈の違いを掲げる。

- ①一丁表一二行目「天下の人のしなたかきや」とはむためし
- ・天下の人の品高きや、と問はむためし
- ・天下の人の品高き宿問はむためし
- ②一丁裏二行目「すきにしとしつきころのことも」
- ・過ぎにし年月ごろのことも
- ・過ぎにし年、月ごろのことも
- ③五丁裏一行目「あめなとふりたるひくれにこむなとやありけむ」
- ・雨など降りたる日、暮れに来むなどやありけむ
- ・雨など降りたる日暮に来むなどやありけむ
- ④一二丁裏二行目「ついたちかけてなかあめいたうすみいたしてひとりことに」
- ・一日かけて長雨いたうす。見出して一人言に
- ・一日かけて長雨。いたう墨出して一人言に

おわりに

本稿で明らかになったのは以下の二点である。

- ① 「古本」は必ずしも萩野本とは限らないものの、限りなく第二類本（見林本を除く）に近い本文であること。
- ② 補入記号のように見える「○」記号は、文を切る箇所によって解釈の分かれる箇所を示す解釈記号であること。

注

- 1 人間文化研究機構国文学研究資料館編『鶴飼文庫蜻蛉日記・阿波国文庫本』
- 2 上村悦子『蜻蛉日記』校本・書入・諸本の研究』古典文庫、一九六三年
- 3 注2に同じ。
- 4 注2に同じ。
- 5 十一行目の傍記「は」は、十行目「^カ柝」の傍記とも考えられる。
- 6 五行目の六文字目は「无」が字母の「も」と解釈した。
- 7 十二行目の五文字目は「无」が字母の「も」と解釈した。
- 8 四行目の最後の字は、「无」が字母の「も」と解釈した。また、十二行目の「心●^地ち」の「●」は、墨減である。
- 9 柿本奨『蜻蛉日記全注釈』角川書店、一九六六年
- 10 注2に同じ。以下に引用する。「零元天皇御在世中の元

禄九年四月には契沖が自己所持の写本に水戸中納言脚本によって校訂を行なっている。此の水戸中納言脚本と同書か否かは判定出来ないが、彰考館には契沖自筆の書入本が現蔵せられ、矢張り元禄の頃の書写と考えられる。」（一六六五～一六六六頁）

【補記】

本稿は、二〇一六年一月から七月までに学習院大学平安文学研究会（神田龍身研究室）で行なった『蜻蛉日記・上』を読む会』において問題となった書入れを整理したものである。各回の発表とは別に、二〇一六年九月二十二日と二十九日に行なった同会において、書入れ内容と書入れ記号を整理した。この研究会の参加者は、武藤那賀子・竹田由花子・毛利香奈子・伊藤優紀奈・福里将平・増田さんご・石川貴洋・富永曜子・伊達舞（日本女子大学）の九人である。また、各丁の担当者は左記の通り。

一丁オモテ〜二丁ウラ

翻刻担当：武藤（二〇一六年一月二十八日発表）

書入内容・書入記号確認：武藤・伊達・石川

三丁オモテ〜四丁ウラ

翻刻担当：富澤（二〇一六年二月二十五日発表）

書入内容・書入記号確認：武藤・伊達・石川

五丁オモテ〜六丁ウラ

翻刻担当…田嶋（二〇一六年三月三日発表）

書入内容・書入記号確認…毛利・福里・富永

七丁オモテ〜八丁ウラ

翻刻担当…竹田（二〇一六年三月三十一日発表）

書入内容・書入記号確認…竹田・伊藤・増田

九丁オモテ〜一〇丁ウラ

翻刻担当…福里（二〇一六年五月二十六日発表）

書入内容・書入記号確認…毛利・福里・富永

一一丁オモテ〜一二丁ウラ

翻刻担当…伊藤（二〇一六年六月九日発表）

書入内容・書入記号確認…竹田・伊藤・増田

一三丁オモテ〜一四丁ウラ

翻刻担当…増田（二〇一六年七月七日発表）

書入内容・書入記号確認…竹田・伊藤・増田

さらに、二〇一六年十月十八日に、温古堂本『蜻蛉日記』（東京大学付属図書館蔵）の書き入れを、武藤那賀子、竹田由花子、福里将平の三人で確認した。

なお、本稿のその他の箇所は、全て武藤が担当した。

最後に、翻刻と画像の掲載をご許可くださった、人間文化研究機構国文学研究資料館および勉強出版に厚く御礼申し上げます。

（むとう・ながこ 学習院大学国際研究教育機構

PD共同研究員）

（とみざわ・もえみ 博士後期課程）

（たじま・ともこ 博士後期課程）

（たけだ・ゆかこ 博士後期課程）

（もうり・かなこ 博士後期課程）

（いとう・ゆきな 博士前期課程）

（ふくざと・しょうへい 博士前期課程）

（ますだ・さんご 博士前期課程）

（いしかわ・きょう 博士前期課程）

（とみなが・ようこ 博士前期課程）

（だて・まい 日本女子大学文学研究科

日本文学専攻博士課程後期）